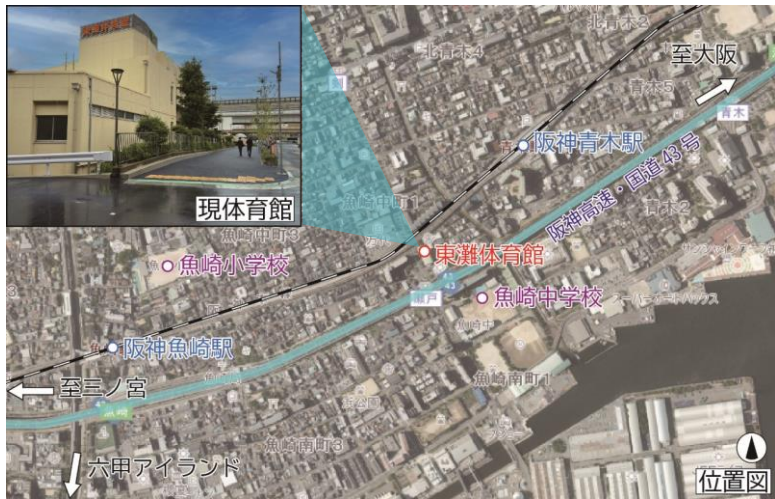


1. 基本計画策定の背景

東灘体育館は、身近にスポーツに親しむ場として、多くの市民に親しまれており、地域における重要な生活インフラになっています。

一方、築50年以上が経過し、施設の老朽化が顕著となっているほか、他の地区体育館と比較して床面積が狭いなど、利用者ニーズに十分に答えられていない状況にあることから、体育館の再整備に向けた基本計画を策定します。

2. 既存施設の現況・課題



現在の東灘体育館は、阪神青木駅と魚崎駅の間に位置しており、阪神電鉄と国道43号に挟まれた街区内で魚崎南町公園、瀬戸保育所と隣接しています。

	既存施設の主な課題
①建築面	競技場の規模が小さく、様々な用途の同時利用に対応しづらい。
②設備面	一部設備の仕様が古いほか、空調設備等の機能が十分ではない。
③安全・防災面	施設の老朽化に加え、災害時の備蓄スペースや物資の搬入動線が十分ではない。
④多様性への対応	授乳室や乳幼児対応のトイレなど、誰もが使いやすい設備が十分ではない。

3. 新体育館の計画地

現体育館の東側に隣接する保育所用地及び公園用地の一部を計画地とします。

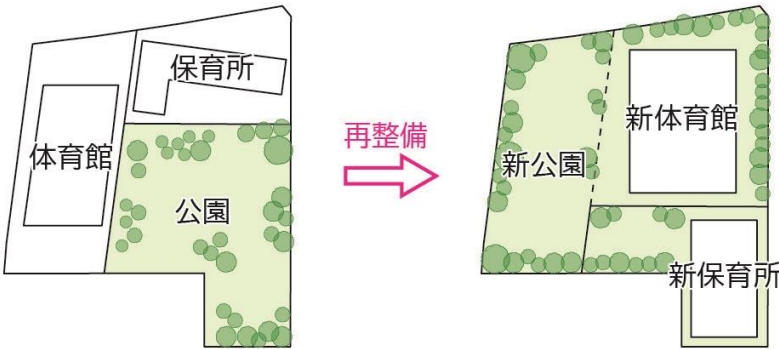


4. 全体計画

>> 全体コンセプト

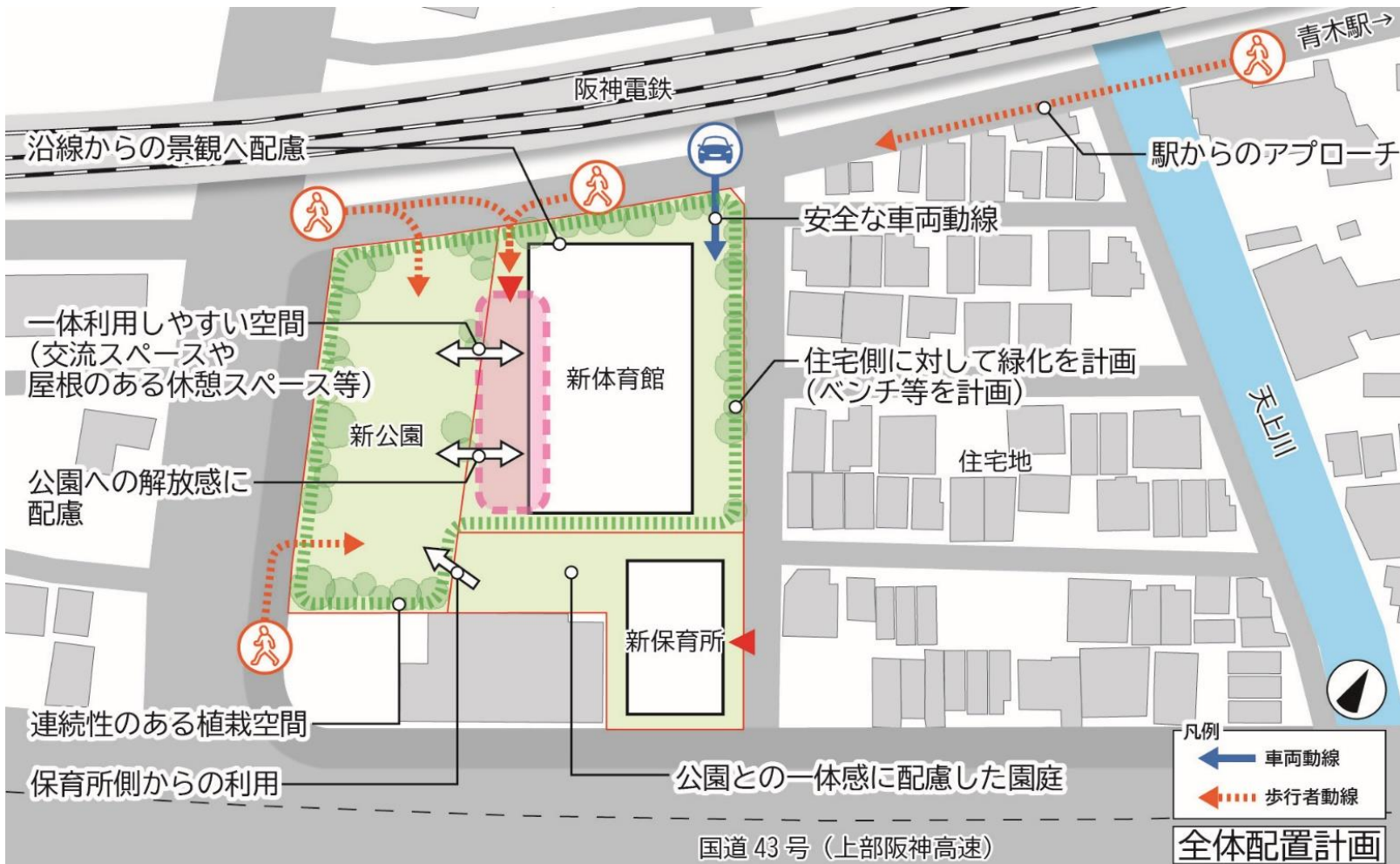
「開かれた緑のスポーツパーク」
～スポーツ・憩い・子育てがにつながる、地域みんなの居場所づくり～

スポーツをするためだけに訪れるのではなく、地域の人々が日常的に立ち寄り、気づけばつながっている—そのような"まちの縁側"的な居場所づくりを目指します。



隣接する公園・保育所との一体的な再整備を契機に、「スポーツ」「憩い」「子育て」の機能をつなぎやすくして、地域全体の魅力と利便性を高めます。

>> 配置計画のイメージ



※あくまでもイメージであり、決定したものではありません。

5. 基本方針

1 スポーツ機能の充実

「地域のために」一質の高い競技・運動環境の整備

- ・ 種目・活動規模に応じた複数の運動空間を設け、地域の継続的なスポーツ活動を支援します。

2 体力づくり・健康づくり機能の充実

「誰もが、毎日、気軽に」一生涯を通じた健康を支える環境の整備

- 日常的な健康増進・体力維持に対応した運動環境を整備し、誰もが継続的に健康づくりに取り組める環境を目指します。

3 交流・コミュニティ機能の充実

「出会い・つながり・気軽に」一人が集まり憩える空間づくり

- 開放的な空間構成により地域の賑わいと施設利用への関心を高め、公園・保育所と連続する動線計画により誰もが安心して立ち寄れる環境を整備します。

4 ユニバーサルデザインの実現

「あらゆる人が使いやすく」－誰もがストレスなく利用できる施設設計

- ・バリアフリー動線・多機能トイレなどの整備により、子育て世代・幼児・高齢者など多様な利用者への配慮を空間計画に組み込みます。

5 環境配慮の推進

「次の世代へ」一環境への配慮や緑との共生を意識した施設整備

- ・省エネルギー・再生可能エネルギーの活用により環境負荷の低減を目指すとともに、公園と一体的な空間となるように緑の連続性に配慮します。

6 防災拠点機能の強化

「平常時も、非常時も」一地域の安全・安心を支える施設整備

- 地域の防災拠点としての機能を確保し、平常時から非常時へ円滑に切り替えられる空間・設備計画を実現します。

7. 概算事業費

新体育館等の再整備に必要な概算事業費（2026年7月時点）を想定します。
今後、近年の資材単価や労務単価の上昇傾向を考慮し、精査を重ねていきます。

項目		概算事業費（税込）
体育館	新築・既存解体事業費	約30億円
公園	整備・既存撤去事業費	約 1億円
保育所	新築・既存解体事業費	約 5億円
合計		約36億円

※保育所の新築は、民間事業者による整備を予定しており、市補助金額相当を計上しています。

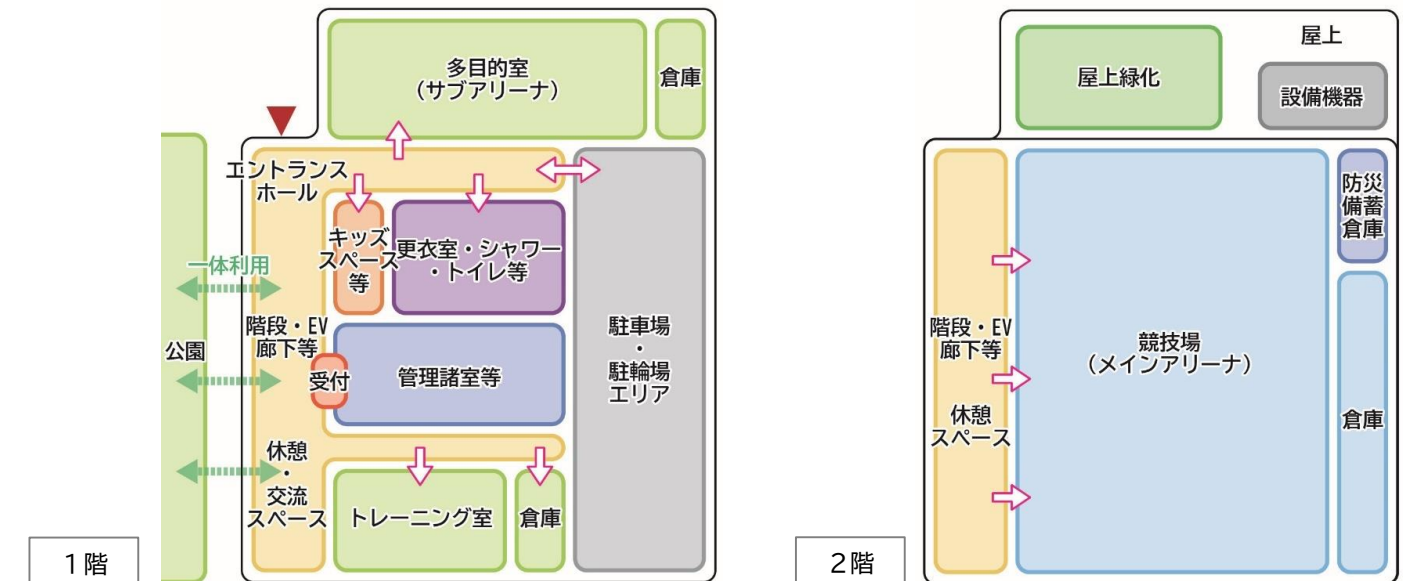
6. 施設整備計画

>> 必要な諸室の設定

全体の延床面積は3,000㎡以内を基準として、
今後の検討において各室の面積を調整します。

主要な諸室	備考
競技場（メインアリーナ）	バスケットボール、バドミントンなどを想定
多目的室（サブアリーナ）	卓球、軽運動、武道利用などを想定
トレーニング室	

>>平面計画のゾーニングイメージ



※あくまでもイメージであり、決定したものではありません。

8. 事業スケジュール

現段階において想定する事業スケジュールは以下の通りです。新体育館については、2028年度より設計、2030年度より工事を実施し、2032年度頃の供用開始を目指します。

